

5 事例報告

5-1 1年生「総合的な探究の時間」

(1) 成果と課題

1年生の総合的な探究の時間については、予定通り実践を行うことができた。次年度に向けては、海外修学旅行を中心とした2年生の総合的な探究の時間の研究開発を行う予定である。また、学校設定教科（科目）の設定に向け、先進校視察などの取り組みを引き続き行う必要がある。

(2) 事例（外部講師の活用）

榛高タイム（企業人講話）実施要項（案）

1 榛高タイム（1年生）の探究テーマ

身近な社会を知る 地域の課題解決学習を通じて、キャリア教育を推進する。

2 目的

地元企業及び行政関係者の講話を実施し、地域に関する認識を深めるとともに、地域社会に積極的に携わり課題を協働的に解決する力を育成する。また、企業人のキャリアを学び、自身の進路意識の向上を図る。

3 日時

令和2年9月8日（火） 1～4限 9:00～12:30

4 場所

静岡県立榛原高等学校 1学年各教室

5 講師

講師 (敬称略)	企業・役職名	講話 ①	講話 ②	演題
海野 友晴	富士山静岡空港（株）	11	12	『リージョナル・ランドマーク・エアポート』
三浦 忠司	島田掛川信用金庫	12	13	『夢のある信用金庫の仕事』
大石 斉	矢崎部品（株）ものづくりセンター	13	14	『人生100年の時代』
中里 賢一	（株）伊藤園	14	15	『未来の可能性は無限大』
松田 仁	TDK株式会社	15	11	『高校生活ですべきこと』

6 その他

○ 持ち物

筆記用具、手帳、実施要項（このプリント）、振り返りシート、榛高タイムファイル

○ 注意事項

9月15日の榛高タイムで、この企業人講話の発表・共有を行います。

手帳に講話内容、疑問点や気付きなど等、メモしておくこと。

タイムスケジュールおよび役割分担





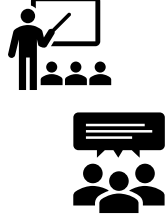

時程	内容	活動	備考
8:20～	朝SHR	担任より ・ 企業人講話の意義、講話を聴く際の注意事項等 ・ 生徒2名→授業で使う荷物を取りに行くよう指示	※1棟1階第2相談室 (会議室前)へ
8:30～8:40頃	講師来校	会議室にて対応	講師への説明・確認 ・ 市民ファシリテーターが進行役 ・ 写真撮影の可否
8:40～9:00	事前指導	各クラスにて実施 (市民ファシリテーターより) ・ 本時の目標、流れ等の説明 ・ 付箋、模造紙等配布 ・ 講話開始5分前に、応接室へ講師を迎えに行く	講師用の椅子等準備 プロジェクタ準備 (クラスで必要に応じて)
9:00～9:30	企業人講話①	司会：担任、副担任 ・ 講師紹介→講話開始	各教室で写真等撮影 (担当：各担・副担任、先生)
9:30～10:00	振り返り ワークショップ①	進行：市民ファシリテーター ・ 個人ワーク (10分) ・ 共有タイム (10分) ・ 質問タイム (10分)	
10:00～10:15	講師移動・休憩	・ 担任が次の教室へ講師誘導	
10:15～10:45	企業人講話②	司会：担任、副担任 ・ 講師紹介→講話開始	各教室で写真等撮影 (担当：各担・副担任、先生)
10:45～11:15	振り返り ワークショップ②	進行：市民ファシリテーター ・ 個人ワーク (10分) ・ 共有タイム (10分) ・ 質問タイム (10分)	
11:15～11:30	講師退場、休憩	・ 担任が控室へ講師誘導	
11:30～12:10	振り返り個人ワーク+発表準備 グループワーク	進行：市民ファシリテーター ・ 企業人講話のまとめ ・ 次回9月15日榛高タイムでの講話内容発表準備	ワークシートへ記入 担任へ提出

「企業人講話」共有タイム!

第8回 榛高タイム 2020年9月15日(火)

- 1 目的: グループで他企業人の講話内容を聴くことで、さらに地域に関する認識を深めるとともに、地域社会に積極的に携わり課題を協働的に解決する力を育成する。
- 2 生徒持ち物: ①筆記用具、②榛高タイムファイル(「企業人講話」当日配布資料・振り返りシート)、③発表用資料(A3一枚)、④生徒用要項(この紙)、⑤本日の振り返りワークシート

3 タイムスケジュール

時程	内容	活動	備考
~15:15 	グループ作り ・着席	5人ずつのグループ(一部4人以下あり)に分かれ、机を近づけて座ってください。	教室掲示のグループ分けを見ること。
15:15 ~15:30 (15分)	資料の作成 	前回の続き(A3一枚)から、発表用の資料を作成してください。 (同じ講話メンバーへの相談もOK)	出来たところまででよい(完璧さを求めなくてよい!)
 15:30 ~15:50 (20分) 	グループ発表 	①司会進行:各グループで決定すること。 ②次の順で、グループ内で発表しましょう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> A → B → C → D → E (一人2~3分で内容の発表。 質疑応答一人1分程度) </div> ※企業人講話当日の欠席者がいるグループやメンバーが4人以下のグループは、 <u>隣のグループの発表を聴く</u>	発表は、大きな声でゆっくりはっきりと <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> 【聴くものの心得】 ・傾聴(けいちょう) (目、耳、心を傾けて聴く) ・批判厳禁。 ・質問しよう。 </div>
15:50 ~16:05 (15分)	振り返りの記入 	各自で振り返りシートを記入しましょう。 ⑤は、前回の内容を元にしながら、本日のグループ発表での学びも反映させて書けると更に良いです。	→ 帰りSHRで担任へ提出 <u>記名・ループリック</u> <u>で自己評価、確認!</u>

- 6 メモ(他の人の報告時に使おう。)

(5) 成果と課題

1年生の総合的な探究の時間は、「地域課題探究」の学習を中心に展開し、2年次に海外（シンガポール・マレーシア）修学旅行につなげることを目的としている。しかし、本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、さまざまな活動が制限されることとなった。特に、臨時休業が行われたため、年間指導計画が大幅に変更された。加えて、生徒の体験を伴う活動は、感染防止のため制限されることとなった。

しかし、昨年度までの研究の成果もあり、実施時期が変更されたものの、大きく指導計画を変更することはなかった。このことは、大きな成果である。一方で、課題としては、感染防止の観点から、外部講師の招聘やフィールドワークについては次年度以降も慎重に実施する必要があり、全体のコーディネートが難しくなることが課題である。

なお、懸案であった教科化については、臨時休業が実施されたことにより、本年度は申請を見送ることとした。

5-2 2年生「総合的な探究の時間」

(1) 年間指導計画と実施内容（計画変更後）

実施項目	時期	内容
学部学科・学問研究	6月	『逆引き辞典』や取り寄せた大学パンフレット等から自分の興味関心・分野を探り、学部学科研究や志望校選定に役立てる。
キャリアデザイン講演会	6月	Career Design Guidance～社会が求める力と大学・高校での学び～ 国立大学法人鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構入学センター准教授山田貴光先生の講演
マスターノート記入	7月	自分史や体験をまとめ、自己の興味・関心について理解を深める。また、社会についての考えをまとめ、社会貢献するためのビジョンについて考える。
オープンキャンパス参加・まとめ・報告会		オープンキャンパス参加・レポート作成、レポート報告会の実施
修学旅行探究（探究活動）		班及び個人で探究テーマを設定し、研修地を決める。仮説、研修計画を立て、事前研修をする。
修学旅行		長崎・広島・岡山 4泊5日
HAF 発表会		島根鳥取研修参加生徒の発表を聞き、学びを共有する。
修学旅行探究（まとめと振り返り）	12～2月	班別研修内容の確認、現地調査のまとめ、探究レポートの作成と発表。レポート及び発表について、自己評価、相互評価を行う。
マスターノート記入・進路シミュレーション	2・3月	自己推薦書の書き方や面接について理解する。自己理解を深め、そのアピールの方法について知る。

(2) 主な生徒の活動

	<p>キャリアデザイン講演会【6月30日(火) 各教室】</p> <p>2年生を対象にZoomを使って、国立大学法人鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構入学センター准教授山田貴光先生のお話を伺った。</p> <p>講演を聴くことで、自分のこれからの生き方や大学での学びについて考え、進路実現に向けての目標を立てた。</p>
	<p>HAF発表会【1月5日(火) 講堂】</p> <p>冬季休業中に、島根鳥取研修に参加した生徒の英語による発表を聞き、内容の理解、研修成果を共有した。</p> <p>3つの研修グループそれぞれが、研修内容(歴史・文化遺産の訪問や班別研修、大学の先生による講義・ワークショップ等で学んだこと)を英語でまとめたスライドを用いて、2年生全体に向け、全て英語で発表した。</p>
	<p>修学旅行探究(まとめと振り返り)【1月19日(火)】</p> <p>修学旅行については、自分たちで班及び個人の探究テーマを設定し、班別研修先などを考え、現地調査を行った。旅行後は、探究レポートを作成し、クラスで発表会を実施した。レポート内容及び発表について、自己評価、相互評価を行った。</p>

(3) 事例(研修旅行)

第19回 榛高タイム(研修旅行振り返り②)実施要項

2年 _____ 組 _____ 番 氏名 _____、

<今年度(2年生)の修学旅行探究の目標>

自分たちでテーマを設定し、研修先を考える。見聞を広めて、自分の未来に役立ち、将来社会へどのように貢献するか考えられるような旅行にしよう。

日 時 : 令和3年1月19日(火) 7限 15:15~16:05 (50分)

場 所 : 各HR

本時の目的: 個人探究レポートの共有と振り返り

役割分担 : 担任、副担任…資料配布、説明、時間管理

持ち物 : 筆記用具、スコラ手帳、榛高タイムファイル（これまでの「修学旅行探究」の資料）、
修学旅行ファイル（しおり）、研修先のパンフレット、ガイドブックなど

配布資料 : 榛高タイム実施要項（このプリント） 探究レポート（担任から返却されたもの）
ワークシート（振り返り用紙）

タイムスケジュール

時間	内容		備考
15:15～	授業開始 概要説明・資料等配布	本時の流れ、本時の目標、資料等確認	
15:20～ (個人・ 5分)	個人のレポートの確認 (修正、補足等)	返却された個人の探究レポートを確認し、発表、回覧の準備をする。(誤字、脱字などがいないか確認し、修正、補足等をする)	ポイントを押さえて説明できるように準備する。
15:25～ (グループ・ 10分)	席替え(修学旅行班) 修学旅行班別の発表	研修係を中心に、修学旅行班内で10分間個人レポートを発表する。(班によって人数が違うので、研修係が発表時間や発表の順番を決めて進める)	3～4人のグループで、1人2分程度発表する。人数の多い班は分かれて行う。
15:35～ (全体・ 5分)	元の席に戻る。 回覧について説明	元の席に戻り、周りの6～7人を1グループとする。グループを確認する。レポートとワークシートを一緒に回す。	修学旅行班の班員が偏っている場合には多少の入れ替えをする。
15:40～ (グループ・ 15分)	個人レポートの回覧	回ってきたレポートを読んでコメントを記入する。 *3分(コメント記入を含む)× ()回 ⇒()回終わったら、レポートとワークシートを本人に戻す。	3分×4回か5回
15:55～ (個人)	個人の振り返り	個人の振り返りを記入する。	
～16:05	まとめ レポート・振り返りの回収 授業終了		

(4) 学習成果の発信 (学習成果レポート)

令和2年度 2年修業タイム 修学旅行 探究レポート

HRNO [2511] 氏名 [神谷 心]

静岡県 加長崎島のイナバロウ

イナバロウの歴史をたどる

2019年11月27日(土) 伊豆半島の南端、伊豆大島に位置する加長崎島。島にはイナバロウの歴史を伝える博物館があり、イナバロウの歴史をたどることができる。

① イナバロウの歴史

イナバロウは、1914年に加長崎島で初めて作られた。当時は、島民の生活必需品として作られた。その後、島外にも広がり、現在では、イナバロウの歴史を伝える博物館があり、イナバロウの歴史をたどることができる。

② イナバロウの歴史

イナバロウは、1914年に加長崎島で初めて作られた。当時は、島民の生活必需品として作られた。その後、島外にも広がり、現在では、イナバロウの歴史を伝える博物館があり、イナバロウの歴史をたどることができる。

令和2年度 2年修業タイム 修学旅行 探究レポート

HRNO [2511] 氏名 [木下 珠希]

軍艦島

軍艦島の歴史をたどる

1914年 石炭採掘 1970年 三菱倉庫建設 1974年 閉山 1975年 無人島

1914年 石炭採掘 1970年 三菱倉庫建設 1974年 閉山 1975年 無人島

1914年 石炭採掘 1970年 三菱倉庫建設 1974年 閉山 1975年 無人島

修学旅行探究レポート

2110 神谷 心

- 1 船酔い対策 日本文化
- 2 船酔い対策 現代の歴史と観光地
- 3 観光の楽しみ 兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。
- 4 兵船 兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。
- 5 観光 兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。

兵船・島

兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。

兵船・島

兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。兵船と島は、世界唯一の観光地という歴史を誇りながら現在では、日本有数の観光地として表れている。

(5) 学習評価 (ルーブリック)

ルーブリック表 修業タイムで身に付いた力を自己評価しよう HRNO 氏名

つけた力	① 情報(文章、図、表など)収集・分析力	② 課題設定・解決力	③ 論理的思考力	④ 表現力	⑤ メタ認知力	⑥ 意思決定力	⑦ 協働力(自己理解・他者理解)	⑧ 社会参画力
A 応用・広がり (Extension) 新しい知識 	入手した情報(文・数値データ・絵等)を比較し、様々な角度から情報を分析、評価する。	適切に課題を設定し、課題の意義、可能性、限界を明確にする。課題解決に向けた解決策を創造する。	与えられた課題に対し、自己と他者の意見を分析し、解決策を提案する。	解釈を検討したり、仮説をたてたりして、自分の考えを適切な言葉で述べる。	自分の思考過程や活動過程を評価し、今後の活動を修正・計画する。(何を学ぶ、自分の考えがどのように変わり、それを今後どう生かすか)	情報を活用して論理的に思考し、自己の経験や知識と比較して、根拠を伴った意思決定ができる。	互いの考えを広く受け入れ、合意形成に向けて発見的な対話をする。	現代社会の諸問題を自分事として捉え、より良い社会の在り方を提案する。
B つながり (Connection) 	複数の情報を取捨選択し、信頼性のある情報を集める。	課題の意義を明確にし、課題解決に向けて事実を比較したり、分類したりする。	自己の知識や経験を、他者の意見と比較する。	自分の経験に当てはめたり、文脈に関連付けたりして考えを述べる。	自分の思考過程や活動過程の記録を通して適切に自己評価する。	取捨した情報と自己を結び付けて比較する。	互いの考えを広く受け入れ、相互に評価する。	現代社会の諸問題と自分とのつながりを解釈し、取るべき行動を考える。
C 考え・基礎知識 (Idea) 基礎知識 	文章を読んだり、話を聞いたりして他者の考えを理解する。情報検索する際の基本的な情報スキルを理解する。	集めた事実についてどこに課題があるのかを理解する。	与えられた課題とどこに課題を、他者の知識や経験を列挙したり思考したりする。	適切な言葉や図や表を用いて自分の考えを表現する。	自分の思考過程や活動過程を記録する。	意思決定につながる情報を適切に取捨選択したり分類したりする。	互いの考えを安心して伝え合う。	現代社会の諸問題について理解する。
D	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。	Cに及ばない。

※1年生の活動で身に付いたことを思い出し、今年度力を入れることをイメージしよう。

5-3 グローカル事業報告会

1 目的

榛原高校における探究学習の成果発表を行うとともに、本事業の研究成果をコンソーシアム代表者及び運営指導委員等の視察をうけ、次年度以降の研究開発の一助とする。

2 日時

令和3年3月19日（金） 午後0時50分から3時20分まで

3 会場

ホテル・オーレ5階 藤の間

*感染症対策のため、より安全に実施できる会場を選択した。

4 参加者

管理機関（静岡県教育委員会）

運営指導委員及びコンソーシアム代表者

連携校関係者（静岡大学教育学部、宮崎県立大宮高等学校、関係中学校）

カリキュラム開発アドバイザー、海外交流アドバイザー、地域協働学習指導員

榛原高校関係者

保護者

代表生徒（南九州研修、北海道研修、島根・鳥取研修参加者、グローバル部代表生徒 約80人）

5 内容

(1) 管理機関・学校長挨拶

(2) 基調講演

演題『コロナ禍と大学での教育研究の状況』（青山学院大学経営学部 教授 亀坂安紀子氏）

(3) 休憩・発表準備

(4) 代表発表

ア 「Attractive and sustainable school and community」

（島根・鳥取研修参加者の英語による発表）

イ 「Purifying water in Ha Long Bay」

（北海道研修参加予定者の英語による発表）

ウ 「食からつながるプロジェクト」（グローバル部の日本語による発表）

(5) ポスターセッション

南九州研修、島根・鳥取研修、実社会プログラム参加者によるポスターセッション（9チーム）

ア 「鹿児島県の茶業の特徴」（南九州研修参加者・1年生）

イ 「茶業の推移と将来」（南九州研修参加者・1年生）

ウ 「南九州研修」（南九州研修参加者・1年生）

エ 「高千穂峡 history」（南九州研修参加者・1年生）

オ 「Water of our life～私たちは豊かな水資源をどのように使うべきなのか～」（理数科探究学習・1年生）

- カ 「AI の能力について」 (理数科探究学習・1年生) 」
- キ 「ベトナムと榛原高校生徒会との交流」 (生徒会・ベトナムオンライン交流会参加者)
- ク 「牧之原市の特産品を発信しよう」 (総合的な探究の時間・1年生)
- ケ (掲示のみ) 「Attractive Town Development」

(6) 講評

静岡大学教育学部副学長 教授 村山 功氏
 宮崎県立宮崎大宮高校 吉田 郷志氏 (予定)

6 実施要項 (案)


文部科学省委託事業地域との協働による高等学校教育改革 (グローバル型) 研究発表会 実施要項 (案)

- 1 日 時 令和3年3月19日 (金) 午後0時50分～3時20分
- 2 会 場 ホテル・オーレ5階 藤の間 藤枝市前島1-3-1 TEL 054-634-2225
- 3 日 程

～11:00	終業式、LHR等終了 (生徒放課) (会場準備 12:00～)
11:40	参加生徒: 昼食を済ませて、学習館前集合・出発 (吉田観光 バス2台)
12:20	会場到着 → 5階へ移動 (待機・発表準備)
12:30～	運営指導委員等参加者受付 (5階 会場前) → 控室 (5階 松の間)
12:45	生徒着席完了 運営指導委員等参加者 控室から会場へ移動
12:50～	司会: 生徒 開会 管理機関・学校長代表挨拶
13:00～	基調講演 (60分) 休憩・発表準備
14:10～	代表発表 (3チーム) (8分×3) 終了後、14:40からの発表について説明
14:40～	発表開始 (発表5分・質疑3分・移動1分) ×3
14:49～	1回目
14:58～	2回目
	3回目 移動
15:10～	講評 (5分×2 10分)
15:20	閉会
	運営指導委員等参加者は、松の間に移動 生徒はそのまま。諸連絡、片付け等の後、バスに移動 バス出発 15:45・生徒帰校 16:30頃・解散
15:30～16:50	運営指導委員会及びコンソーシアム代表者会議 (松の間)

7 グローカル事業報告会

(1) 事前準備

	【令和3年3月18日 ポスターセッション準備】
榛原高校進取館	<p>グローバル事業報告会にむけ、プレゼンテーション、ポスターセッションの予行練習を実施。</p> <p>本番に向け、3月初旬から準備を開始。翌日の報告会に向け、生徒・教員が一丸となって準備をおこなった。</p>

(2) 報告会

	【令和3年3月19日（金） グローカル事業報告会】
校長挨拶	<p>学校長挨拶に続いて、青山学院大学経営学部亀坂安紀子氏による基調講演（『コロナ禍と大学での教育研究の状況』）を実施。</p> <p>休憩をはさんで、生徒によるプレゼンテーション「Attractive and sustainable school and community」（島根・鳥取研修参加者の英語による発表）、「Purifying water in Ha Long Bay」（北海道研修参加予定者の英語による発表）、「食からつながるプロジェクト」（グローバル部の日本語による発表）を行った。</p>
	<p>プレゼンテーション終了後は、南九州研修、島根・鳥取研修、実社会プログラム参加者によるポスターセッション（「鹿児島県の茶業の特徴」（南九州研修参加者・1年生）、「茶業の推移と将来」（南九州研修参加者・1年生）「南九州研修」（南九州研修参加者・1年生）、「高千穂峡 history」（南九州研修参加者・1年生）、「Water of our life～私たちは豊かな水資源をどのように使うべきなのか～」（理数科探究学習・1年生）、「AIの能力について」（理数科探究学習・1年生）」、「ベトナムと榛原高校生徒会との交流」（生徒会・ベトナムオンライン交流会参加者）、「牧之原市の特産品を発信しよう」（総合的な探究の時間・1年生）、「Attractive Town Development」（掲示のみ）を実施した。</p>
基調講演（青山学院大学亀坂教授）	<p>講評では、英語によるプレゼンテーションが高く評価された一方で、間もなく、外国語でコミュニケーションを図ることが当たり前の時代がやってくることや、コロナ禍において、自ら学び体験したことが、今後のキャリア形成に大きな影響を与えることなどが教示された。</p>
	<p>今回の報告会は、感染症対策を踏まえ、施設・設備の整ったホテルの会議室を利用することとなったが、特別な施設で外部の方々の前で発表できたことは、生徒たちの自信につながったのではないだろうか。</p>
ポスターセッション	<p>感染拡大防止の観点から、参加者は、本校代表生徒、運営指導委員、コンソーシアム代表、連携協力校（宮崎県立大宮高等学校）、近隣学校関係者（藤枝東高等学校、小笠高等学校）、グローバル事業関係企業（株式会社ヤマザキ、株式会社吉村）に限定して実施した。</p>
	<p>なお、報告会の様子は、遠隔会議システム（Zoom）を利用して、校内職員にライブ中継した（試行）。</p>
講評（静岡大学村山教授）	

6 研修報告

6-1 先進校視察報告（宮崎県立飯野高等学校、宮崎県立高鍋高等学校）

1 学校訪問の目的

人口減少が進む地域において、地域と連携しながら「探究」に取り組んでいる学校を訪問し、各校における「探究」や地域連携の取り組みの具体を知り、榛原高等学校での取り組みに活かす。加えて、それぞれの高校と遠隔で交流し、双方の生徒の学びや成長の機会をつくりたい。

2 報告事項

ア 宮崎県立飯野高等学校

飯野高校の梅北瑞輝教諭より、学校の課題（生徒数の減少、進路多様校）をはじめ、普通科総合コースの実施する地域貢献活動、普通科探究コースの実施する探究活動、生活文化科が取り組んでいる地域支援活動および生徒が関わる様々な活動について伺った。

市内唯一の県立高校という強みを活かした、地域・行政・学校の三者共創による学び・人づくりの工夫が多くみられた。具体的には、飯野高校魅力化コアチーム会議の設定、NIEを活用した小中高校の連携などがあげられる。学校のカリキュラムに収まらず、コロナ禍においても探究を止めない生徒たちの様々な活動についてもうかがうことができた。マイプロジェクトに向けての探究活動だけではなく、子育て支援活動の立ち上げやグローバルリーダーズサミットの開催、オンラインを用いて海外企業でのインターンシップなど、探究を通して自立した生徒たちが「成り行き未来ではなく、意思ある未来へ」自ら進んでいた。

イ 宮崎県立高鍋高等学校

渡会康浩教務課長と三浦章子教諭から、学校の特色と探究科学科の探究活動について詳しく伺った。具体的には、探究科学科では1年生でまちづくりと近隣の小丸川の2回のフィールドワークを通じて探究を進めるための基礎を学び、2年生で個人の突き詰めたい探究について進めていく。さらに探究の授業と並行して「ロジカルコミュニケーション」の授業で論理的に考える力を伸ばし、English Winer Camp 等での探究発表を通して実践していく。高鍋高校は、同県の日南高校、小林高校とともに、3校をICTでつなぐ授業を繰り返しており、生徒たち自身もZoomを使った探究報告は日常化したプロセスになっているとのことであった。



3 感想等

飯野高校、高鍋高校の両校ともに、榛原高校と遠隔で探究に関して生徒同士が報告しあう機会を持ちたいと申し出たところ、探究担当者の段階ではご快諾いただけた。今後両校との関係を深め、お互いの探究活動の充実が図れればと思う。

1 日程

(1) 日時

令和2年9月10日（木）午後2時から4時まで

(2) 場所

札幌市立開成中等教育学校（札幌市東区）

(3) 訪問の目的

「地域との協働による高等学校教育改革（グローバル型）事業（文部科学省）」に関連して、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業及び国際バカロレア教育推進に関連した海外見学旅行について視察を行い、当事業推進の参考とするため。

(4) 訪問者

校長 渡邊昇司、教諭 向井 稔

(5) 対応者

学校長 廣川 雅之

2 報告事項

(1) SSH事業に関連した海外見学事業について

全生徒に海外研修の機会を設けている。予算制限があり、希望研修（事業費で研修費用補助）と組み合わせ実施している。一方で、選考に漏れ希望研修に参加できない生徒がいるため、全額自己負担でのアメリカ研修も用意している。

本年度に関しては、新型コロナウイルスの影響によりすべての研修が中止されている。

(2) 国際バカロレア教育に関連した海外研修事業について

IB教育を学校教育の中心に据えており、タイ、ドイツなどへの見学旅行を実施している。ベトナム、台湾、中国などの生徒を一週間程度受け入れるプログラムも実施している。

(3) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う海外研修中止に伴う代替指導について

北海道内で検討中。

アイヌ民族博物館、洞爺湖サミット関連施設の見学などを準備中。

(4) 札幌市立開成中等教育学校と榛原高校との生徒間交流の可能性について

新型コロナウイルスの感染状況を確認のうえ、実施する。

まずは、リモートで生徒をつなぎ、交流を開始する方向で検討。窓口は副校長。

3 感想

中等教育学校の特性を生かし、IBを学校経営の中心に据えているため、教育理念・方針が明確であった。また、SSH、SGH（終了済み）、IBが効果的に組み合わせられており、探究学習が組織的、効果的に実施されていることを感じた。

生徒の進学先については、今後は海外の大学等も視野に入ってくるだろうとのことで、本校の一步先を進んでいる学校であると改めて感じた。

なお、ICTについては、全生徒にiPadを購入させているとのことで、今回のコロナ禍において、有効に活用できたようである。本校でも実現できるか、学校に戻って検討をしてみたいと感じた。

7 成果と課題

7-1 事業評価（校内評価）

(1) 総合的な探究の時間について

本年度の活動については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、昨年度末に計画した事業が、延期や中止となり、研究開発を中断せざるを得なかった。特に、2年生については、本研究の中核事業である「マレーシア・シンガポール研修」が、中止となり、研修先の選定からやり直しとなった。この影響で、グローバル教育を中心とした研究開発は次年度以降に延期することとなり、管理機関とも相談の上、研究開発を打ち切った。

しかし、昨年度までの研究の成果もあり、1年生については、実施時期を変更したり、遠隔会議システムを利用することで、生徒の活動の場を最低限確保することができた。また、2年生については、研修先を国内に変更したことに加え、臨時休業で授業時間を確保するため、長期休業が短縮され、十分な探究活動ができないなかでも、課題研究と発表を行うことができた。

本年度の「総合的な探究の時間」の研究開発については、最低限の研究成果とはなってしまったものの、コロナ禍において、フィールドリサーチ（課外活動）や講演会（リモートを含む）を組み合わせ、様々な生徒の活動を行うことができたのは、コンソーシアム機関等の協力と昨年度までの研修の成果であったと考えている。次年度以降は、本年度の成果、特にICTを活用した遠隔会議システムを取り入れるなどして、新しい形で生徒の学習機会と学力の保障を行っていきたい。

なお、この2年間の研究成果を踏まえ、学校設定教科・科目の設置（地域創造探究Ⅰ～Ⅲ、発展地域創造探究/榛高タイム）については、本年度中に管理機関に正式に申請する予定である。

(2) 課外活動について

ア 事業内容の変更

主体的で対話的な学びを保障するため、生徒の「自ら学ぶ場」を確保するために奔走した1年であった。原因は、HAFプロジェクトの最大の柱である「海外研修」が、新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響を受けてしまったからである。

当初は、その影響を軽視していたため、海外交流アドバイザーと連絡をとりつつ、アメリカ研修の実施時期を8月末から12～2月へ。台湾研修は予定通り12月実施。ベトナム研修の事前調査も予定通り10月としていた。しかし、緊急事態宣言の発出、全世界に広がる被害状況をみて、事業計画全体の見直しを行う必要に迫られ、4月末から研修先の変更について調査を開始した。

アメリカの在シアトル総領事館から、「（訪米については）ビジネスなどの経済再開も、科学的データといくつかの指標に基づいて、3週間おきに見直す4つの段階で行っていくこととされています。一方、日本でも新しい生活様式が提案されているように、ワシントン州でも新しい日常生活が提案されるなど、以前のような状況に戻る、という訳ではなさそうに思います。正直我々としましても、数週間後が世界的にどうなっているのか想定することも難しい状況で、日々刻々と変わる状況を確認して、在留邦人に情報提供することで手一杯になっており、先を見据えた対応というのはまだまだ先の話になりそうです。今年12月末～来年2月で調整ということですが、それを踏まえますと、現時点ではその可否判断も非常に難しいものと思われます。繰り返しになりますが、世間的に言われておりますのは、海外旅行が本格再開するのは、ワクチンの開発・普及状況によるのではないかと、ということです。もちろん、必要不可欠な海外旅行や感染防止措置を行うものは、もう少し早く再開されるかもしれません。」（令和2年5月9日付）との連絡をいただき、この時点で緊迫する現地の状況を把握し、本格的に安全に研修を行うことができる研修先選びに着手した。

一方で、台湾については比較的楽観視しており、管理機関から正式に通達があるまで（8月末）実施の方向で検討をしていたが、国内に目的地を変更することとした。

以上のような経緯で、海外研修を国内研修に変更して実施することとした。実施にあたっては、本校の事業の趣旨に適した研修先になることを最優先した。また、研修先については、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いている地域を優先するとともに、移動にあたっても富士山静岡空港を利用することで、できるだけ感染リスクを下げる工夫をし、島根・鳥取（出雲空港）、南九州（鹿児島空港）、北海道（丘珠空港または千歳空港）、北九州（福岡空港）、沖縄（那覇空港）を研修候補地とした。

これらの中から、充実した学校交流や企業研修等が実施できるとして、島根・鳥取、南九州（鹿児島・宮崎）、北海道（旭川・札幌）の3コースを選択した。

イ 研修内容について

南九州研修は、1年生を対象に募集を行い、33人の応募があり、32人が実際に研修に参加した。静岡県・牧之原市の主要産業である「茶」に注目し、近年急速に生産を伸ばしている鹿児島県との対比を目的として実施した。事前研修として、ふじのくに茶の都ミュージアム（静岡県島田市、コンソーシアム）を訪問し、基本的な知識を学んだ後、南九州市を訪問し、知覧茶の特徴などについて南九州市茶業課から講演をいただいた。

また、知覧において平和学習（知覧特攻平和会館）を行い、自分たちと同世代で特攻隊として亡くなった兵隊の手紙を読み、今を生きる自分たちについて考えることができた。加えて、Glocal Academyの岡本所長の講義を受講した。生徒は探究学習の意味を学び、「Risk・Reality・Responsibilityは、「それが実現可能か(実現)、それをするとどんな損害があつて(危険)、それは許容可能か(責任)」という言葉が印象に残ったようである。

さらに、宮崎県立宮崎大宮高等学校との連携事業も実施され、宮崎市内フィールドワークを行った。

島根・鳥取研修は、地域学習に主眼を置き、島根大学・鳥取環境大学、雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムの協力を得て、フィールドリサーチを行った。事前学習として、島根大学の中村准教授が、リモートで地域学習の大切さについて島根県立隠岐島前高校の取組を生徒に紹介しており、これを踏まえての研修となった。

両研修は、本校の生徒に不足している「実体験」を補う研修となり、生徒・保護者対象アンケートの評価も高かった。（島根・鳥取 肯定的評価 100% n=10 南九州研修 肯定的評価 96.8% n=31）一方で、保護者アンケートからは、11月以降感染者が急増したこともあり、コロナ禍のなか参加を迷った。無理して研修を行うものなのかと思ったといった意見もあった。

なお、北海道研修については、3月に実施する予定であったが、緊急事態宣言の発出の影響で延期とした。研修の内容は、次年度に予定しているヴェトナム研修を踏まえ「水」をテーマとし、旭川市、旭川大学、旭川明成高校、札幌市立開成中等教育学校との学校交流、グリーンテックス社、株式会社ヤマザキ事業所訪問などを計画している。

(3) グローカル部について

グローカル部の活動も新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、大きく制限されることとなった。

グローカル関係事業は、海外への渡航制限に加え、従来行ってきたイングリッシュ・キャンプへの参加や小中学校との交流活動もできなくなってしまった。

一方で、ローカル（地域）を中心とする活動については、本校の周辺地域が比較的感染状況が厳しくなかったこともあり、最低限の活動を行うことができた。特に、中小企業家同友会との連携や、リモートを活用した探究学習発表会への参加については、制約はあったものの十分な活動を行うことができた。

次年度以降に向けては、グローバル部の活動が学校内外で評価が高まっており、この成果を維持し、さらに発展させることが課題である。

(4) 文理融合型のカリキュラム開発について

ア カリキュラム開発の概要

カリキュラム開発アドバイザーの指導の下、4月から計画的にカリキュラム開発に着手し、リモートを含め8回の協議を行い、教育課程検討委員会（校内委員会）と協力しながら新教育課程案を作成した。

新教育課程の特徴は、すべての入学生に探究的な学習の機会を保障したことである。また、従来の文系、理系のコース分けを発展的に解消し、グローバルコース（英語を中心に学ぶ生徒）とサイエンスコース（理数系科目を中心に学ぶ生徒）に変更したことである（名称は仮称）。加えて、選択科目として、家庭基礎探究（2単位）を設置することとした。なお、この科目は旧課程のもとでスタートし、新課程施行の際には、「発展家庭基礎（2単位）」として再度申請する予定である。

イ 参考資料 学校設定教科・科目申請書（令和2年度申請時）

学校設定教科・科目の設定に関する説明資料	
学校設定教科・科目を適用する学校の管理機関	静岡県教育委員会
学校設定教科・科目を設定する学校	静岡県立榛原高等学校
設定する学校設定教科・科目の内容	
教科・科目名	家庭基礎探究（基礎科目：家庭基礎）
単位数	2
対象学科・学年	普通科3学年
必履修・選択の別	選択
設定する教科・科目の内容	科目の目標 課題解決的な学習や探究的な学習を通して、「家庭基礎」の目標・内容に示された資質・能力を養成する。特に地域の生活課題に目を向け、自ら設定した課題解決学習を行うことによつて、地域生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 科目の内容 1 食生活と健康 2 住生活と住環境 3 子供の生活と保育 4 課題研究

	その他 特記事項	特記事項なし	
--	-------------	--------	--

(5) コミュニティ・スクールについて

学校評議委員会・評価委員会の組織を一部改変し、次年度からコミュニティ・スクールに移行するための体制を強化することとなった。特に、令和3年度は静岡県教育委員会の研究指定もうけることとなった。

(6) 新規事業について

本校にとって初めての学校間連携として、連携協定を宮崎県立宮崎大宮高等学校（WWL指定校）と締結した。また、札幌市立開成中等教育学校とも連携協定を見据えた交渉を行っており、グローバル関連の情報共有と共同研究を深めることが可能となった。

また、国外の学校とも連携協定を前提とした交渉を始めており、大きな成果を得ることができた。今後は、この関係を維持・発展させるために学校全体で研究を推進する必要がある。

(7) その他の活動について

グローバル事業終了後の事業持続性を見据え、同窓会に資金を管理するための仕組みを構築した。次年度以降、この仕組みを発展させ、当初計画したグローバル基金となるように研究開発を進めるとともに、成果を普及させていきたい。

7-2 事業評価（カリキュラム開発アドバイザー）

カリキュラム開発アドバイザー 静岡大学教育学部 島田 桂吾

今年度は新型コロナウイルスの影響で計画の見直しが余儀なくされた。そのような中でも榛原高校は「生徒たちに身につけさせたい資質・能力」を育成するためにどのような代替が好ましいのかを、関係教員が協議をしながら事業を進めてきた。その過程で改めて新学習指導要領や本事業の方向性を共有する契機になったのではないと思われる。

カリキュラム開発アドバイザーとして関わる中で感じる変化として、これまでの事業で得られた成果を活かしながら学校全体で取組む体制ができつつある点である。特に、探究的な学習のカリキュラム構想を中心としながら、学校設定科目の在り方など担当者間で協議をしながらカリキュラム開発を進める土台ができつつあると評価している。ただ、本来であれば実施した教育活動を評価した上でカリキュラム開発につなげるべきところであるが、新型コロナウイルスの影響で実施できない事業が多かったため、早急にカリキュラムを完成させることを目的とするのではなく、生徒の様子をふまえながら練り上げることが重要であると思われる。

ただ、上記のような取組について保護者や地域への周知について課題が残されていると思われる。次年度から学校運営協議会の立ち上げを予定しているが、学校運営協議会は学校経営方針の承認権を持つことになる。裏を返せば、承認したことについては学校運営協議会として責任を持ち、協議の結果を保護者や地域へ情報発信することが努力義務とされている。榛原高校ではコンソーシアム会議等の経験から学校運営協議会の素地はできていると思われる。今後は学校運営協議会の権限を活用しながら本事業の成果を地域に還元できるアイデアを練り上げていただきたい。

8 運営会議等

8-1 第1回運営指導委員会・コンソーシアム会議

(1) 日 時

令和2年10月26日(月) 午後3時から4時30分まで

(2) 場 所

榛原高校社会科教室他(オンライン会議)

(3) 出席者

コンソーシアム委員10人、運営指導委員7人

(4) 協議事項

ア 管理機関代表、学校長挨拶

イ コンソーシアム代表者・運営指導委員自己紹介

ウ 令和2年度の事業内容について

- ・新型コロナウイルスによる事業内容の変更について
- ・変更後の事業内容の承認

エ 質疑等

(5) 質疑事項(抜粋)

- ・コロナの影響で予定していた事業ができていないが、予算の繰り越し等の措置ができないか文科省に確認をすべき。
- ・グローバル・リーダーの育成については課題。
- ・大学では、前期はWeb、後期は対面で授業を行っている。
- ・教員の対応力もあり、比較的うまくやれている印象。
- ・海外の大学生との交流等は、来年の5月の連休を活用できるのでは。
- ・実社会との連携、中小企業家同友会などの活用も大切。
- ・オンラインの活用など視点を転換する必要性を感じる。
- ・地域外交(局)チャンネルの活用を。
- ・医療系人材の育成を。
- ・東京の就職難を伝え、卒業生にUターン就職を働きかけてほしい。
- ・体感できない生活は、今後常態化する可能性がある。オンラインをもっと教育に活用すべき。
- ・日本にいながら海外で働くことを想定した海外研修(リモートインターンシップ)を検討すべき。
- ・カリキュラム開発について、次年度に向けて「(生徒が)ワクワクするような」科目を検討してほしい。
- ・ICTの環境整備を。

(6) その他

ア 第2回コンソーシアム代表者会議、運営指導委員会について

令和3年3月19日(金) 午後3時から 榛原高校進取館(予定)

イ 学習成果報告会について

令和3年3月19日(金) 午後1時から 榛原高校進取館(予定)

8-2 第2回運営指導委員会・コンソーシアム会議

(1) 日 時

令和3年3月19日（金） 午後3時から4時30分まで

(2) 場 所

ホテル・オーレ会議室 （藤枝市）

(3) 出席者

管理機関代表、運営指導委員、コンソーシアム代表者、榛原高校関係者

(4) 内 容

ア 令和2年度グローバル事業報告会について

イ コンソーシアム代表者会議及び運営指導委員会 合同会議

- ・本年度の事業報告
- ・次年度の事業計画
- ・質疑応答、意見交換等

(5) 協議事項

ア 高校と大学の単位互換は可能かについて

- ・青山学院大学は、規制が厳しく現実的でない。
- ・静岡産業大学は、検討できる議題。
- ・静岡大学は、一部の学部では可能性がある。
- ・理想やタテマエではなく、できるサービスから提供すべき。
- ・教育委員会（高校教育課）でも検討してほしい。

イ 教員の指導力向上について

- ・生徒のプレゼンテーション指導は、理数科の理数探究の成果が出ている。
- ・生きた説明ができる生徒を育成するように教員のスキルアップを。

(6) 報告事項（抜粋）

- ・報告会について、英語での発表などは今後当たり前になっていく、とても良い事業だと感じた。
- ・他の高校ではどのような取り組みがなされているか関心がある。
- ・事業最終年度を迎えるが、このまま終わらせないために民間のパートナーなどを開拓したい。
- ・時代に合った教育がなされている。このまま終わらせない工夫を。特に予算面で。
- ・Zoomを活用した新しい形の授業づくりができています。
- ・海外交流（リモート）には、時差の壁がある。ベトナム、タイ、インドネシア、オーストラリアなどを対象とすべき。
- ・学び直し教育など、榛原高校の授業を公開するのはどうか。
- ・部活動の改革の必要性もある。

8-3 文部科学省視察

1 日 時 令和3年2月18日(木) 14:40～15:40

2 場 所 社会科教室 (Zoom)

3 参加者 榛原高校 校長・副校長・向井・高森(管理機関) 文科省 安彦・小泉・矢澤

4 内容

(1) 令和2年度の活動の進捗状況及び令和3年度の活動予定

校長から説明

(2) 質疑応答

〈安彦〉①課題解決学習を行っていく上で総合的な探究の時間3単位で時間は足りているか?

→英語、公民でのクロスカリキュラムの実施。課外活動として実社会プログラムやグローバル部の活動を行っている。

◇教育課程外で実施することのデメリットとして振り返りや評価が十分に行えない。育てたい資質や能力を保つことができ、持続的な活動としていくために、学校設定教科・学校設定科目に落とし込む工夫が必要。他校の見本となるようなカリキュラム編成を行ってほしい。

②家庭科以外の教科科目との連携はどうなっているか?

→現代社会でのストックリーグへの参加。英語については、コロナの影響もあって本年度は行えていない。

◇少ない時間の中でパフォーマンスを発揮していくためには、教科横断的な取組が必要であり、広がりを持たせてほしい。

→データの蓄積、共有のために生徒はGoogle クラウドルームを活用。教員には冊子、報告書で情報共有。ICTの環境整備も進めている。

③活動中の講義や講話では、生徒たちの活動の目的を十分に果たすことができているか?

→講義・講話前には事前に情報共有を行い、目的を明確にして実施している。

生徒たちはGoogle クラウドルームで意見を共有し、主体的な取組につなげている。

④地域との協働活動において、生徒の学びを継続させていくためにどのような取組をしているのか?

→牧之原市は前市長の西原氏以来「対話による町づくり」を進めていて、コンソーシアムの中にも市民ファシリテーターがいる。1年生の総合的な探究の時間にファシリテーション研修を実施し、課題解決学習にも市民ファシリテーターが定期的に介入し、教員の負担軽減にも繋がっている。

◇生徒は経済的な視点に弱さがあるので、金融機関とのコラボレーションも推進してほしい。

〈小泉〉①理数科の総合的な探究の時間の単位、まとめ取りについての確認。

②ベトナム研修追加の理由

→継続している台湾研修からのステップアップチャレンジ。

- ③「地域創造探究」が学校設定教科として位置づけられていない。委託事業取り消しにも該当することなので、令和3年度の事業計画の中に教科化に向けてはっきり分かるような書き方をしてほしい。
- ④令和3年度事業計画の中で、「総合的な探究の時間」、「グローバル英語」、「発展家庭基礎」などのグローバル型での位置づけをわかるようにしてほしい。
- ⑤希望者が取り組む活動が多い。リモート活動をさらに広げるなどして学校全体に活動を反させていくことが求められる。希望研修に参加していない生徒にも、学校全体で共有することができるカリキュラム開発を進めてほしい。
- ⑥先進校視察とは具体的にどのような学校か？
→コロナ禍で海外に行くことができない状況の中では、SGH・WWL事業に取り組んでいる学校と連携を取り、生徒の学びにつながることを取り入れていく。

(3) 高校改革についての説明（安彦）

第1回 カリキュラム開発会議（議事録）

1 日 時

令和2年4月14日（火） 午前11時から正午まで

2 場 所

榛原高校会議室他（新型コロナウイルス感染防止に配慮して実施）

3 出席者

カリキュラム開発アドバイザー 島田 桂吾（静岡大学教育学部）
校内推進委員（校長、副校長、教頭、研修課、教務課担当）

4 内 容

(1) 課外活動（国内外研修）について

ア 実施の日時の変更等について

アメリカ研修 8月から12月へ（2月の可能性を調査中）
台湾研修 12月（予定通り）から3月への変更を検討中
沖縄研修 8月から12月への変更の可能性を検討中

イ フィールドワーク等の見直しについて

企業訪問
「総合的な探究の日」（大学訪問他）

(2) 総合的な探究の時間について

ア 臨時休業にともなう年間計画の変更。
計画変更を調整中（休業期間の終了日時が見通せたところに対応）。
海外修学旅行の国内への変更等大幅な変更あり。

イ 教科化に向けて

総合的な探究の時間3単位の教科化の可能性を探っている。
学校設定教科・科目との関連については、教科横断型とする方向で検討。
教科化したことによるデメリットも考慮しながら研究を行っている。

(3) 学校設定教科・科目について

ア 家庭科

3年生文系（2～4単位）の選択科目として準備を開始。
対象人数は最大80人で、進学から就職まで幅広い生徒の進路希望に対応する予定。
2年生の必履修科目（家庭基礎）の発展学習としての位置付けで検討中。

イ 英語科（グローバル英語）

3年生文系（2～4単位）。昨年度の実績を踏まえ、実現に向け検討中。

5 指導・助言

研究開発については、順調に進んでいるが、新型コロナウイルスの影響による一斉休業で今後の事業見直しは避けられない。また、グローバル事業は、海外研修を行うことが研究開発の重要な位置付けとなっているが、予定通り実施できる見込みが立っていない（外務省の海外渡航情報から）。
海外研修及びフィールドワークについては実施計画の大幅な変更等について検討をする必要がある。

第2回 カリキュラム開発会議（議事録）

1 日 時

令和2年7月6日（月） 午後3時30分から4時30分まで

2 場 所

榛原高校校長室、会議室

3 出席者

カリキュラム開発アドバイザー 島田 桂吾（静岡大学教育学部）

校内推進委員（校長、副校長、研修課（向井、山本）ほか）

4 報告・検討事項

(1) 課外活動（国内外研修）について（報告）

ア 新型コロナウイルス感染症の影響による国内外研修の実施時期変更について

アメリカ研修（8月から2月に変更）、台湾研修（12月から3月への変更）、沖縄研修（8月から12月への変更）について実施する予定。

イ 新型コロナウイルス感染症の影響によるフィールドワーク等の見直しについて

企業人講話9月8日（火）、「総合的な探究の日」（静岡大学訪問他）12月3日（木）実施予定（変更なし）

(2) 総合的な探究の時間について（報告）

ア 臨時休業にともなう年間計画の変更。

計画変更を調整（別紙資料）、海外修学旅行の国内への変更

イ 総合的な探究の時間の教科化に向けて

(3) 学校設定教科・科目について（報告）

ア 家庭科

2年生の必履修科目（家庭基礎）の発展学習（別添資料あり）

イ 英語科（グローバル英語）

3年生文系（2～4単位）の発展学習

(4) ベトナム研修について（検討事項）

次年度以降の海外研修先の一つに、ベトナム（ハノイ周辺）を加えることを検討中。

ベトナムの事業計画については、グローバル事業の趣旨に一致した研修内容であり問題ない。

アメリカ研修は、新型コロナウイルスの感染状況によっては、厳しいかもしれない。海外研修の代替研修先としても安全な研修先を準備しておく必要がある。

5 教育課程検討委員会（カリキュラム開発会議）

カリキュラム開発アドバイザー紹介

6 その他

高大連携事業、9月8日（火）企業人講話への大学院生派遣について検討してほしい。

高大連携事業、年次別研修対象者の受け入れについて、日程調整のうえ後日連絡する予定。

グローバル事業、大学訪問（1年生、総合的な探究の時間）について、日程調整中。

グローバル事業担当者会議（文科省）、7月30日（木）遠隔にて実施予定。

次回、カリキュラム開発会議、9月15日（火）午後3時30分から4時30分まで（予定）。

第3回 カリキュラム開発会議（議事録）

1 日 時

令和2年9月10日（木） 午後3時30分から4時15分まで

2 場 所

榛原高校 123 教室（リモートで実施）

3 出席者

カリキュラム開発アドバイザー 島田 桂吾（静岡大学教育学部）

教務課 鈴木 研修課 山本

4 報告・検討事項

(1) 課外活動（国内外研修）について（報告）

ア 新型コロナウイルス感染症の影響による国内外研修の実施時期変更について

第2回の際、アメリカ研修（8月から2月に変更）、台湾研修（12月から3月への変更）、沖縄研修（8月から12月への変更）と変更をお知らせしたが、現状では実施不可能のため、

アメリカ研修 → 2月北海道で検討中（学校訪問等）

台湾研修 → 12月に鹿児島・宮崎

牧之原市と関連のある企業の現地法人訪問、茶業関係企業の視察、自然体験、学校訪問等

沖縄研修 → 12月に島根・鳥取

地域の様々な資源を活用し、地域の活性化を図っている観光施設、文化施設等の見学、大学訪問等で、進行中

イ 新型コロナウイルス感染症の影響によるフィールドワーク等の見直しについて

企業人講話（1年生）9月8日（火）実施

「総合的な探究の日」（静岡大学訪問他）中止

12月3日（木）静岡大学見学 中止（変更内容検討中・1学年では県立大は見学に行くが、他の予定は実施しないなど余裕を持った日程にしてもよいかと考えている）

(2) 総合的な探究の時間について（報告）

ア 臨時休業にともなう年間計画の変更。

計画変更を調整、海外修学旅行の国内への変更

イ 総合的な探究の時間の教科化に向けて

(3) 学校設定教科・科目について（報告）

ア 家庭科

2年生の必履修科目（家庭基礎）の発展学習

「家庭基礎演習」として、県に申請中（令和3年度3年生から実施予定）

イ 英語科（仮 グローカル英語）

3年生文系（2～4単位）の発展学習

（令和4年度入学生が3年次・令和6年度から実施予定）

ウ 総合的な探究の時間

(4) ベトナム研修について（検討事項）

次年度以降の海外研修先の一つに、ベトナム（ハノイ周辺）を加えることを検討中。

ベトナムの事業計画については、グローバル事業の趣旨に一致した研修内容であり問題ない。

現在、2回のリモート打ち合わせを実施。ハロン大学との学生交流を検討中。

5 その他

・次回会議について

10月26日（月）運営指導委員会前にお願ひしたい。日程調整はあらためてご連絡する。

6 カリキュラム開発アドバイザーから

- ・牧之原小学校の修学旅行のこと（鹿児島で検討している）
- ・隠岐島前高校のこと（山村留学などを実施している高校がある）
- ・大学の現状、高校はどのような状況か情報交換
- ・総合的な探究の時間の教科化について（教科化に向けた検討経過を明確にする）

第4回 カリキュラム開発会議（議事録）

1 日 時

令和2年10月26日（月） 午後3時30分から4時15分まで

2 場 所

榛原高校

3 出席者

カリキュラム開発アドバイザー 島田 桂吾（静岡大学教育学部）
教育課程検討委員（カリキュラム開発会議委員）

4 報告・検討事項

カリキュラム開発会議に出席。
冒頭あいさつ及び指導・助言を行う。

第5回 カリキュラム開発会議

1 日 時

令和3年1月13日（水） 午前10時から11時まで

2 場 所

榛原高校会議室他（新型コロナウイルスについて感染防止に配慮して実施）

3 出席者

カリキュラム開発アドバイザー 島田 桂吾（静岡大学教育学部）
校内推進委員（校長、副校長、教頭、研修課）

4 内 容

(1) グローカル事業について

令和2年度事業について（活動報告）

令和3年度の事業計画について

(2) 新カリキュラムについて

分離融合型カリキュラム開発の継続について

(3) 学習評価について

令和3年度のカリキュラム開発に学習評価を加え、静岡大学教育学部と連携して研究開発を行う。

5 指導・助言

本年度の活動が、新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響をうけ、研究開発が滞ったことは否定できない。次年度に向けては、コロナの影響で事業計画が大きく変更になっても対応できるような内容としたい。また、事業計画の変更を前提とした計画を立案するのも賛成できない。当初の申請の趣旨通りの研究開発を進めることが重要である。

学習評価の研究については、静岡大学教育学部と連携して進めることは可能。榛原高校にとっても静岡大学教育学部にもメリットのある研究開発になるよう推進すべきである。

生徒自身の自己評価は、生徒のキャリア教育にもつながる可能性がある。

6 その他

今回は、1月26日（火）静岡大学教育学部にて運営指導委員会、コンソーシアム代表者会議について協議を行う。

第6回 カリキュラム開発会議

1 日 時

令和3年1月26日（火） 午後3時から4時まで

2 場 所

静岡大学教育学部（新型コロナウイルスについて感染防止に配慮して実施）

3 出席者

カリキュラム開発アドバイザー 島田 桂吾（静岡大学教育学部）

研修課 向井 稔

4 内 容

(1) グローカル事業について

令和2年度事業について（活動報告）

令和3年度の事業計画について（変更点の確認）

運営指導委員会、コンソーシアム代表者会議について

(2) 新カリキュラムについて

グローバルコースとサイエンスコース（仮称）の設定について

(3) 学習評価について

令和3年度の校内研修の実施について（年3～4回）

5 指導・助言

本年度の生徒の学習成果を発表するにあたり、外部の方々（運営指導委員会、コンソーシアム代表者）を招待するが、感染予防を踏まえて、対策がしっかりした外部の施設を活用するのも一つの方法である。

ただし、費用が高額になるのが問題。静岡大学の施設を利用しても良い。

新カリキュラムについては、原則としてすべての生徒が3年間数学・理科を学ぶ機会を保障するカリキュラムとなった。2年生からのコース選択もグローバルコースとサイエンスコース（仮称）とし、グローバルコースにおいては、英語を中心に、サイエンスコースにおいては、理数科科目を中心に科目を選択できるように配慮した。また、家庭科において学校選択教科（科目）を新設し、探究的な学びを深める機会を増やすことができたのは良かった。

次年度については、校内研修の一環として、グローバル事業に関連した最新の教育行政についてと新課程導入にむけた学習評価について研修を行い、3年間の研究開発の総括にすることが望ましい。

なお、グローバル事業を展開していく中で、いくつかの学校や企業と新たな関係が生まれたが、それをどのように継続していくか。両者にとってウイン・ウインの関係を構築していくことが今後の課題である。

6 その他

次回 3月19日(予定) 運営指導委員会

9 質問紙調査等結果（抜粋）

HAFプロジェクト アンケート

評価基準は、以下のとおり。

- ① 大変良かった ② 良かった ③ 普通 ④ あまり良くなかった ⑤ 良くなかった

設問に対しては、事前に期待していた評価を③とし、それを基準として評価した。

アンケート実施期間は令和3年3月19日（金）。

調査対象は、HAFプロジェクト参加者 87人（回収率79.3%）

1 中馬前ベトナム大使館書記官のベトナムに関する講演会は、意義ある研修である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	10	14.5	14.5
2	20	29.0	43.5
3	37	53.6	97.1
4	1	1.4	98.5
5	0	0.0	98.5
不明	1	1.4	100.0
計	69	100.0	

2 島根大学中村准教授の地方創生に関する講義は、意義ある研修である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	14	20.3	20.3
2	32	46.4	66.7
3	19	27.5	94.2
4	1	1.4	95.6
5	1	1.4	97.0
不明	2	2.9	100.0
計	69	100.0	

3 島根・鳥取、南九州研修は、意義ある研修である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	25	36.2	36.2
2	14	20.3	56.5
3	27	39.1	95.6
4	1	1.4	97.0
5	1	1.4	98.4
不明	1	1.4	100.0
計	69	100.0	

4 学校交流（宮崎大宮高校、三島北高校、札幌開成中等教育学校）は、意義ある事業である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	28	40.6	40.6
2	16	23.2	63.8
3	24	34.8	98.6
4	1	1.4	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

5 海外とのオンライン交流（ベトナム、台湾）は、意義ある事業である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	16	23.2	23.2
2	9	13.0	36.2
3	41	59.4	95.6
4	0	0.0	95.6
5	2	2.9	98.5
不明	1	1.4	100.0
計	69	100.0	

6 グローカル事業報告会等のオンライン発表会は、意義ある事業である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	9	13.0	13.0
2	18	26.1	39.1
3	37	53.6	92.7
4	4	5.8	98.5
5	0	0.0	98.5
不明	1	1.4	100.0
計	69	100.0	

7 報告会や発表会（ポスターや発表原稿の作成など）は、意義ある事業である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	27	39.1	39.1
2	24	34.8	73.9
3	14	20.3	94.2
4	4	5.8	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

8 フィールドリサーチ（企業訪問や大学訪問）は、意義ある事業である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	20	29.0	29.0
2	17	24.6	53.6
3	30	43.5	97.1
4	2	2.9	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

9 グローカル事業報告会（本日）は、意義ある事業である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	29	42.0	42.0
2	29	42.0	84.0
3	8	11.6	95.6
4	2	2.9	98.5
5	1	1.4	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

10 学校外の施設（ホテルオーレ）を使用しての報告会は、意義ある事業である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	22	31.9	31.9
2	31	44.9	76.8
3	5	7.2	84.0
4	6	8.7	92.7
5	5	7.2	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

11 HAF プロジェクトに参加して、地域社会のことに興味を持つようになった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	24	34.8	34.8
2	28	40.6	75.4
3	12	17.4	92.8
4	4	5.8	98.6
5	1	1.4	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

12 HAF プロジェクトに参加して、外国の文化や歴史に関心を持つようになった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	15	21.7	21.7
2	34	49.3	71.0
3	14	20.3	91.3
4	2	2.9	94.2
5	4	5.8	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

13 HAF プロジェクトに参加して、実社会に関心を持つようになった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	15	21.7	21.7
2	38	55.1	76.8
3	12	17.4	94.2
4	3	4.3	98.5
5	1	1.4	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

14 来年度も、HAF プロジェクトに参加したい

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	12	17.4	17.4
2	30	43.5	60.9
3	20	29.0	89.9
4	5	7.2	97.1
5	2	2.9	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

15 HAF プロジェクトは榛原高校生にとって、意義ある事業である

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	33	47.8	47.8
2	26	37.7	85.5
3	9	13.0	98.5
4	1	1.4	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	69	100.0	

16 HAFプロジェクト全般について、意見・感想を書いてください。

(感想、改善してほしいこと、今後取り入れてほしい研修など簡潔に記入してください)

<報告会に関すること>

- ・参加しなかった研修について何を学んだのか知れてよかったですと思います。
- ・1年間やってきた活動を学校外の大人の方々に見てもらえてさらに評価してもらえたのでとてもよかったですと思います。
- ・人が多くしかも視線があつかったので、よい経験になりました。次もあればやりたいです。
- ・この経験は今や将来にも役に立つことだと思うのでいいと思った。またさまざまな研究や発表がきけてよかったです。
- ・考え、まとめ、発表をし、質問に答えるという今日の経験がこれからの私をより成長させてくれると思いました。高校内以外での大人の方々に見てもらうことができ、新しい課題や気づきがあったこともよかったです。
- ・グローバルな活動ができて、楽しみつつ、実社会について多くの興味を持ちながら発表までこぎつくことができた。
- ・色々な人からたくさん話を聞くことができて良かったと思います。
- ・調べたことだけではなくて自分の考えもしっかり持っていたのでよかったです。最初の2つの英語の発表がすごかった。
- ・調べてまとめることもとても大事だが、発表する場があるのは良い経験にもなる。
- ・自分達で調べたこと、体験したことを分かりやすく説明するというとてもいい経験ができたと思う。

<南九州研修のこと>

- ・このようなプロジェクトを通して、地域のことや海外のことについて目を向けることができ、とても良いと思います。南九州研修を通して、さまざまな貴重な体験ができ、参加して良かったと感じました。このような機会を逃してしまうと高千穂峡や砂風呂の体験はできなかつたと思うので、とてもよかったです。次の研修は、場所によって考えたいと思っています。
- ・高校との交流や講演はただ南九州に旅行に行っただけではできない貴重な体験でした。もう少しそれぞれの研修が長く時間がとってあればよいと思いました。
- ・南九州研修の自然体験は、何を学べばよいのか全くわからなかつた。貴重な話をいくつも聞けたのはよかったです。
- ・今回初めてこの研修に参加してみて、南九州と牧之原市、静岡県との違いや思わぬ共通点に触れられてとても良かった。そこから探究性が磨かれたと思う。

<HAFプロジェクトについて・その他・要望等>

- ・私も何かの研修に参加したいと思った。
- ・他の地域との交流が多くあってよかった。
- ・実際に現地へ行くので学習がしやすいと思う。
- ・いろいろな体験、経験ができたのでいいと思う。
- ・地域のことをより深く知れたり、自分の知らない世界を知ることができたので良かったです。
- ・今回のこのプロジェクトで牧之原市の問題などをいろいろ知ることができた。
- ・HAFプロジェクトに参加して、世界の問題や地域の課題、それに対する解決法について知ることができてよかったです。

・今回の活動を通して、いろいろな人と関わることができ、自分にとって大きな進歩ができたと思います。コロナ禍で研修にも大きな影響があったけど、大宮高校の生徒のみなさん、榛原高校の違うクラスの生徒とも仲良くなることができたと思います。本当に良い経験をすることができました。

・このプロジェクトは自分の知らなかったことを知れるだけでなく色々な能力が身につくのでとても良いプロジェクトだと思いました。

・普段むけなかった視点で地域のことについて調べまわることができて良かった。牧之原市がどのような活動をすればより発展するか、これからも考えていきたいです。

・普段では経験することのない貴重な体験と共に、自らの将来につなげられるような情報やお話を聞かせていただくことができたと思います。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年は沢山の計画が中止という形になってしまったので、来年参加する時には、今年上手くいかなかった研修にぜひ参加してみたいです。

・普段の授業では体験することのできないことを体験できたので、とても楽しく、身になるものでした。新型コロナウイルスの影響で思うように海外研修ができない中でも、リモートで行っていただきありがたかったです。

・今回のHAFプロジェクトを通してお茶や他県のことなど様々なことを知れた。来年度も参加したいと思った。

・とても勉強になりました

・今回の活動により、他地域のことをより知ることができてよかったと思う。これから先もこの活動は続けてほしいと思う。

・実際に行って、そこから自分たちで考えることは、これからも重要となってくると思うので、良い体験だと思いました。

・HAFプロジェクトはとてもいい経験になった。

・地域や海外などいろんなところと関わっていていいなと思った。

・このプロジェクトは榛原高校の圧倒的アイデンティティのため、積極的にやるべきだと思う。

・勉強では学べないことを学べるよい機会となった。

・地域の中での課題に取り組む中で、自分で考える力と周りとの話し合いを進める力が身についたので良かったです。

・私には少し難しい内容であったが、このような機会はなかなかないので有意義な活動だと思った。

・HAFプロジェクトでたくさんのことを学びました。しかし南九州研修では、もう少し事前情報がほしいかなと思いました。

・もう少し日程に余裕を持ってほしかったです。

・様々な話を聞けて、自分の考えの幅が広がったのは良かった。今年はコロナで制限されたが、フィールドワークをふやしてほしい。

・海外交流が少ないのはしかたないとはいえさびしいものがあった。

・もっと前から計画や当日の予定について知らせてほしい。

・県外へ出るというのはたいへん楽しかったですが、社会情勢について考えて実行とした方が良いと思います。

・プロセスで何を学ぶのか、何をしてくるのかの計画的な部分をもっとしっかりしたかった。発表グループの人数をもっと減らした方が一人ひとりが担うものが大きくなると思う。

・理数科の優遇がちょっと強めに感じました。しかし、良い経験ができました。

・発表で欲をいえばもう少し音のまざらない環境がほしいです。

・全額榛高のお金で研修をしてほしい。

・外国人との交流（2）

○ 島根鳥取研修アンケート結果【生徒】

評価基準は、以下のとおり。

- ① 大変良かった ② 良かった ③ 普通 ④ あまり良くなかった ⑤ 良くなかった

設問に対しては、事前に期待していた評価を③とし、それを基準として評価した。

アンケート実施期間は令和3年1月25日（月）から29日（金）までとした。

調査対象は、研修参加者 島根鳥取研修 10人、南九州研修 32人（未提出1）、その保護者 42（未提出1）人。

1 島根・鳥取研修について 結団式・解団式は意義あるものであった

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	20.0	20.0
2	6	60.0	80.0
3	2	20.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

2 島根・鳥取研修について 雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムは意義があった

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	60.0	60.0
2	4	40.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

3 島根・鳥取研修について 島根大学中村准教授の講話は意義あるものであった

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	90.0	90.0
2	1	10.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

4 島根・鳥取研修について 鳥取環境大学吉永教授の講話は満足できるものであった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	9	90.0	90.0
2	1	10.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

5 島根・鳥取研修について 歴史文化研修（出雲大社）は満足できるものであった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	8	80.0	80.0
2	1	10.0	90.0
3	1	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

6 島根・鳥取研修について 歴史文化研修（石見銀山）は満足できるものであった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	8	80.0	80.0
2	2	20.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

7 島根・鳥取研修について 歴史文化研修（境港市うみと暮らし史料館）はどうでしたか

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	6	60.0	60.0
2	3	30.0	90.0
3	1	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

8 島根・鳥取研修について 歴史文化研修（鳥取砂丘）は満足できるものであった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	9	90.0	90.0
2	1	10.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

9 島根・鳥取研修について 研修後のプレゼンテーション（校内発表）はどうでしたか

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	3	30.0	30.0
2	6	60.0	90.0
3	1	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

10 島根・鳥取研修について 研修後のプレゼンテーション（遠隔発表）はどうでしたか

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	3	30.0	30.0
2	4	40.0	70.0
3	3	30.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

11 島根・鳥取研修について 研修後のプレゼンテーション（台湾の高校生）はどうでしたか

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	7	70.0	70.0
2	2	20.0	90.0
3	1	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

12 島根・鳥取研修について 大学見学（鳥取環境大学）は満足できるものであった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	6	60.0	60.0
2	4	40.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

13 島根・鳥取研修について 宿泊したホテルは満足できるものであった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	7	70.0	70.0
2	3	30.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

14 島根・鳥取研修について 静岡空港を利用した研修計画は満足できるものであった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	9	90.0	90.0
2	1	10.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

15 HAFプロジェクト 島根・鳥取研修全体については満足できるものであった

	度数	相対度数 (%)	累積相対度数 (%)
1	9	90.0	90.0
2	1	10.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

16 HAFプロジェクト 島根鳥取研修について、意見・感想を書いてください。

(感想、改善してほしいこと、今後取り入れてほしい研修など簡潔に記入してください)

- ・とても楽しく、とても多くのことを学べてよかったです。
- ・島根鳥取研修は、とても充実していて、楽しかったです。
- ・ガイドさんがたくさん色々なことを教えてくれて、勉強になりました。
- ・研修後のプレゼンテーションでは、台湾とのZoomの時、ネット環境が悪かったので、少し残念でしたが、とても良い経験ができました。
- ・最初に思っていたよりもすごく為になることばかりで良かった。発表がリモートで出来たのが良かった。
- ・全体的にとっても有意義で、楽しみながら研修することができたので良かった。
- ・あまりこういった活動に参加したことがなかったので、今回参加できてよかったです。
- ・楽しく学ぶことができたと思います。
- ・自分のチームがこれから学んでいくことについて、最初に決めておくことで、研修でそれを意識しながら行くことができた。また、校内発表やZoom撮影などはとても緊張したけれど、とても良い経験になった。他校の発表や台湾の学生との交流を通して、たくさん刺激を受け、学ぶことが多くあった。
- ・今回はコロナの影響で研修は全くないと思ったいたので、行ってきて嬉しかったです。前回行ったことを生かして発表などに取り組むことができました。台湾との交流もできて研修に参加してよかったなと思います。海外もよかったけど国内でも充分学ぶことができたと思うので、コロナが落ち着くまでは国内での研修を続けて欲しいと思いました。リモートのときに司会という大きな役をやらせてくれて本当にありがとうございます。自分の中でとても成長できたと思います。

○ 南九州研修アンケート結果【生徒】

1 南九州研修について 結団式・解団式は意義あるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	16.1	16.1
2	13	41.9	58.0
3	11	35.5	93.5
4	2	6.5	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

2 南九州研修について ふじのくに茶の都ミュージアムでの研修（お茶）はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	41.9	41.9
2	15	48.4	90.3
3	3	9.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

3 南九州研修について 南九州市で研修（お茶についての講話）はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	41.9	41.9
2	16	51.6	93.5
3	2	6.5	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

4 南九州研修について 平和学習（知覧特攻平和会館）はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	16	51.6	51.6
2	11	35.5	87.1
3	4	12.9	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

5 南九州研修について グローカルアカデミー講話（桜島）での研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	16	51.6	51.6
2	12	38.7	90.3
3	3	9.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

6 南九州研修について 学校交流（宮崎大宮高校）での研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	23	74.2	74.2
2	3	9.7	83.9
3	5	16.1	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

7 南九州研修について 大宮高校との宮崎市内フィールドワークはどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	24	77.4	77.4
2	5	16.1	93.5
3	2	6.5	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

8 南九州研修について 自然体験（指宿温泉）は満足できるものであった

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	19	61.3	61.3
2	8	25.8	87.1
3	2	6.5	93.6
4	2	6.5	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

9 南九州研修について 自然体験（高千穂峡）は満足できるものであった

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	20	64.5	64.5
2	9	29.0	93.5
3	1	3.2	96.7
4	1	3.2	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

10 南九州研修について 鹿児島・宮崎市内研修（夕方）は満足できるものであった

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	21	67.7	67.7
2	7	22.6	90.3
3	3	9.7	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

11 南九州研修について 宮崎大宮高校とのポスター作製は満足できるものであった

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	16.1	16.1
2	14	45.2	61.3
3	9	29.0	90.3
4	3	9.7	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

12 南九州研修について パソコンを利用した報告書作成等の研修はどうでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	6.5	6.5
2	16	51.6	58.1
3	12	38.7	96.8
4	0	0.0	96.8
5	1	3.2	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

13 南九州研修について 指宿、鹿児島、宮崎のホテルは満足できるものであった

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	22	71.0	71.0
2	9	29.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

14 南九州研修について 静岡空港を利用した研修計画は満足できるものでしたか

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	16	51.6	51.6
2	14	45.2	96.8
3	1	3.2	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

15 HAFプロジェクト 南九州研修全体は満足できるものであった

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	22	71.0	71.0
2	8	25.8	96.8
3	1	3.2	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

16 HAFプロジェクト 南九州研修について、意見・感想を書いてください。

(感想、改善してほしいこと、今後取り入れてほしい研修など簡潔に記入してください)

- ・中々行くことのない南九州を楽しめたし、ためになるものも多かった。大変満足できた。
- ・ホテルの大浴場に入れる時間を伸ばして、ゆっくり入れるようにしてほしい。あとは楽しい体験も勉強になるなどと思った体験もありとても有意義な研修だったと思う。
- ・南九州研修の交流や見学、講演を通し、鹿児島県の宮崎県の魅力やこれから大切なことなど様々なことを学ぶことができました。それぞれの研修の時間をもっと長くしてほしいと思います。また、地域の高校との交流をしたいと思います。
- ・たいへん楽しかったです。

- ・今回交流を行った大宮高校との交流を続けていきたいです。
- ・高千穂峡や知覧特攻平和会館をもっとじっくり見る時間がほしかった。
- ・普段体験することができない貴重な体験ができてよかった。
- ・事前に調べて内容の分かるものは、期待どおり想像どおりでした。
- ・このような研修の体験は初めてなので、とても良い体験になりました。どの研修も良いと感じました。
- ・高千穂にもうちょっといたかったです。
- ・森を歩きたい。
- ・今まで体験したことがないこと（飛行機や砂風呂・・・）などをたくさんできてとても楽しかった。そこから学べることもあって、有意義な時間を過ごせた。
- ・ひとつひとつの研修、体験をもっと余裕を持って行えたら良かったと思う。たくさん体験が積めたのは良かったが、ひとつのことに多くの時間をかけたかった。
- ・自分の視野が広がる意味ある研修だったと思う。1日目のホテルが少しほこりっぽかった。
- ・海外交流の際の学校を、榛原と同じくらいにしてほしい。
- ・久しぶりに他県に行けてものすごく楽しかったです。大宮高校とのフィールドワークはすごく牧之原市を改めて見つめることが出来ました。
- ・学力レベルが同じくらいの高校の方が会話がしやすいと思う。
- ・知覧特攻平和会館、高千穂峡は良い経験になるが、説明してくれる人がいると良い。（平和会館では、静かに壁に説明が書いてあったりするが、人が説明してくれると分かりがよく、質問もできるので、その方が良いと感じた。高千穂峡は本当に見るだけで《それでも素晴らしいが》になっていると思ったため。）ポスター作成については、帰ってきてからの作業になってしまい、大宮高校の人と連絡をせず、一方で作る形になってしまったので（もちろん生徒側でコミュニティを作ればいい話だが）、共同で作成できるようにしてくれるとありがたい。
- ・自由研修の時間がもう少しあると良かったです。
- ・研修で訪れた場所、内容、どれもとても良かったと思います。LINEを使って連絡ができ、便利でした。今後もこのような活動に参加していきたいと感じました。
- ・今回の南九州研究でたくさんのことを学ぶことができました。特にお茶について自分が知らなかったことも学べてよかったなと思いました。
- ・女性の先生がいてくださった方がやりやすいです。テーマ決めの部分をもう少しやってもらえた方が学びは深かったと思います。
- ・静岡では出来ない貴重な経験をたくさんすることができました。

○ 島根鳥取研修アンケート結果【保護者】

1 事前研修（講演会等）は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	50.0	50.0
2	4	40.0	90.0
3	1	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

2 事後報告会（学年発表、遠隔発表）は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	60.0	60.0
2	3	30.0	90.0
3	1	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

3 研修日程（3泊4日）は、お子様にとって適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	80.0	80.0
2	2	20.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

4 県外での講演等の研修は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	70.0	70.0
2	3	30.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

5 県外での、異文化体験（市内研修等）はお子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	80.0	80.0
2	2	20.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

6 研修に参加して、お子様は静岡と訪問先とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	50.0	50.0
2	2	20.0	70.0
3	3	30.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

7 すべての研修に参加して、お子様は、自分と訪問先とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	50.0	50.0
2	2	20.0	70.0
3	3	30.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

8 研修に参加して、お子様は、立場が異なる他者の意見を尊重することができるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	60.0	60.0
2	3	30.0	90.0
3	0	0.0	90.0
4	1	10.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

9 研修に参加して、お子様は、実社会と自分とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	4	40.0	40.0
2	5	50.0	90.0
3	1	10.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

10 帰宅後、様々な場面でお子様の変化や成長を感じられた。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	2	20.0	20.0
2	6	60.0	80.0
3	0	0.0	80.0
4	2	20.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

12 本年度の国内研修の募集人数は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	6	60.0	60.0
2	2	20.0	80.0
3	2	20.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

13 実施期間（12月末）は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	5	50.0	50.0
2	3	30.0	80.0
3	2	20.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

14 国内研修（1年：南九州 2年：島根鳥取）は、生徒にとって意義ある事業であると感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	9	90.0	90.0
2	1	10.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

15 国内研修（南九州、島根鳥取）は、来年度の生徒も参加するほうが良い取組みだと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	7	70.0	70.0
2	3	30.0	100.0
3	0	0.0	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	10	100.0	

16 この研修を通じ、お子様自身にどのような変化（成長）がありましたか？

意見・感想を自由に御記入ください。その他御意見等がありましたら御記入ください。

- ・特に変化はありませんでした。普段経験出来ない事をしたのでこれからに期待します。
- ・島根、鳥取のいい所と静岡県がいい所探しをして、比べたりしていた。自分の夢について（将来について）深く考えるようになった。自分の意見を言えるようになった。
- ・コロナ禍の中、無事に連れて行ってもらい感謝しています。2年生は修学旅行の後、2度目の研修、本人の中では、楽しい事、勉強になる事、いろいろあったのだと思います。（帰ったら年末だったので、ゆっくり話を聞けなかったです。）研修場所について、色々調べた事、それについて発表する内容を考えた事など親と一緒にやらない事、知らない事を学べたと思っています。
- ・コロナ禍の実施で、不安が全く無かったとは正直言えませんが、感染者の非常に少ない県でしたので、「めっちゃ楽しかったー!!」との、空港での第一声を聞いて、思い切って参加させてもらった良かったなあと思いました。帰宅後の課題が大変そうですが、事後報告会は社会に出た時に役立つ経験だと思いますので、とても有意義に感じています。グループのメンバー同士で作業を分担する事で協調性と責任感が培われたと思います。子供たちが安全に楽しく研修できました事、関わって下さった先生方や皆様に感謝しております。誠にありがとうございました。
- ・今回行った先の風土、気質などを肌で感じてきて、自分の地元の特長を再確認した様です。
- ・鳥取、島根研修の準備の時点から他県の事に興味を持ち、文化や歴史を知ろうとする姿が見られました。初めての大学の先生のお話も考え方や物事の見方、良い勉強になった様です。コロナ禍でしたが、沢山の方々にお世話になりながら、こんなすばらしい体験が出来、好奇心旺盛度がUP出来た事は、とても良い研修をさせていただきました。ありがとうございました。

○ 南九州研修【保護者】

1 事前研修（講演会等）は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	14	45.2	45.2
2	13	41.9	87.1
3	4	12.9	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

2 事後報告会（学年発表、遠隔発表）は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	16	51.6	51.6
2	7	22.6	74.2
3	7	22.6	96.8
4	0	0.0	96.8
5	0	0.0	96.8
不明	1	3.2	100.0
計	31	100.0	

3 研修日程（3泊4日）は、お子様にとって適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	20	64.5	64.5
2	8	25.8	90.3
3	2	6.5	96.8
4	1	3.2	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

4 県外での講演等の研修は、お子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	22	71.0	71.0
2	6	19.4	90.4
3	1	3.2	93.6
4	2	6.5	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

5 県外での、異文化体験（市内研修等）はお子様にとって意義あるものだったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	23	74.2	74.2
2	6	19.4	93.6
3	0	0.0	93.6
4	2	6.5	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

6 研修に参加して、お子様は静岡と訪問先とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	41.9	41.9
2	12	38.7	80.6
3	6	19.4	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

7 すべての研修に参加して、お子様は、自分と訪問先とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	11	35.5	35.5
2	12	38.7	74.2
3	8	25.8	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

8 研修に参加して、お子様は、立場が異なる他者の意見を尊重することができるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	25.8	25.8
2	16	51.6	77.4
3	5	16.1	93.5
4	2	6.5	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

9 研修に参加して、お子様は、実社会と自分とのつながりを感じられるようになったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	14	45.2	45.2
2	14	45.2	90.4
3	2	6.5	96.9
4	1	3.2	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

10 帰宅後、様々な場面でお子様の変化や成長を感じられた。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	8	25.8	25.8
2	14	45.2	71.0
3	8	25.8	96.8
4	1	3.2	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

12 本年度の国内研修の募集人数は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	22	71.0	71.0
2	8	25.8	96.8
3	1	3.2	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

13 実施期間（12月末）は適切であったと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	13	41.9	41.9
2	3	9.7	51.6
3	9	29.0	80.6
4	3	9.7	90.3
5	2	6.5	96.8
不明	1	3.2	100.0
計	31	100.0	

14 国内研修（1年：南九州 2年：島根鳥取）は、生徒にとって意義ある事業であると感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	21	67.7	67.7
2	5	16.1	83.8
3	5	16.1	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

15 国内研修（南九州、島根鳥取）は、来年度の生徒も参加するほうが良い取組みだと感じる。

	度数	相対度数(%)	累積相対度数(%)
1	18	58.1	58.1
2	6	19.4	77.5
3	7	22.6	100.0
4	0	0.0	100.0
5	0	0.0	100.0
不明	0	0.0	100.0
計	31	100.0	

16 この研修を通じ、お子様自身にどのような変化（成長）がありましたか？

意見・感想を自由に御記入ください。その他御意見等がありましたら御記入ください。

- ・コロナの影響がなければ、5泊6日ほどの日程でもよかったように思います。県外（遠方）での異文化体験がなかなか出来ることではないので、西方面だけでなく、東方面（東北）の研修もあればよいと思います。
- ・ニュースや新聞などの話題について、自分から関心を持って話をするようになりました。他校の生徒さんに刺激を受け、学校生活を前向きに過ごしている様に感じます。研修後の報告会に向けて、熱心に取り組んでいる姿は、普段の授業にはない大きな学びを得た証だと思いました。感受性の高い時に、このような経験をさせて頂いた事は、大変ありがたい事です。
- ・人見知りのところがあるのですが、少し積極的になったと思います。参加して大変成長があると思いますし、いい経験ですが、コロナがやはり心配でした。
- ・他県の学生との交流が良い刺激になった様子です。食文化の違いも印象に残った様子です。コロナ禍のなか様々な行事が実施できない状況で研修開催を英断して頂きありがとうございます。
- ・日常では体験できない様々な事を学ばせていただきありがとうございます。少しでも見聞を広げてもらえたらと思い、参加させていただきました。コロナ禍の中、このような機会を与えて下さりありがとうございました。県外に出る事により、県内の良さを知り（逆も然り）、新しい発想や発見、つながりを感じたことでしょう。
- ・遠方で、初めての経験を重ねることで新しいものを見てみたいという欲が出てきたのではないかと思います。
- ・貴重な体験をさせて頂き有難うございました。

- ・通常では、会わない県外の学生と話しができて良かったと思います。
- ・研修というより観光的な部分が多いと感じます。他県に行く事により九州という地域の特色などは感じる事ができたと思います。現在、コロナ禍にあり、そんな時期に行く事に心配、不安を感じ不適切であったのでは・・・と感じる部分はありました。直前まで行くのか迷っていた部分もあり、結果、皆、健康面安全に過ごす事ができたのですが、結果論であり、もう少し慎重に・・・とコロナや、安全面に対する説明、参加に対する有無を家庭の選択などにするなども検討した方がよかったのかな・・・と感じます。
- ・コロナ禍の中、無理してまで行くものだったのか？と思います。コロナ感染者が出なかったものの、それは単なる結果であって、関係者の方の努力では無い。コロナ感染者が出た時はどうするのか？という間に誠意ある答えがなかったことが、今でもおかしいと思う。
- ・おこづかいの上限を決めてもよかったかと思います。

令和3年3月31日

静岡県立榛原高等学校 HAFプロジェクト (HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT)

静岡県立榛原高等学校HAF委員会／研修課

編集責任者 校長 渡邊昇司
副責任者 副校長 田形和彦
副責任者 教頭 小原勝則

【編集者】

研修課長（グローバル事業担当）	教諭 向井 稔
教務課長（カリキュラム開発担当）	教諭 鈴木 美徳
進路課（地域連携推進監）	教諭 下村 武治
研修課（総合的な探究の時間担当）	教諭 山本 純子
研修課（国内外研修担当）	教諭 森田 和樹
研修課（国際交流事業担当）	教諭 増井 伊都
図書広報課（総合的な探究の時間担当）	教諭 牧野 一高
総務課（グローバル部顧問）	教諭 原口 教次

〒421-0422 静岡県牧之原市静波 850

電話 0548(22)0380

F A X 0548(22)6557

<https://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf/>